

# ほ ど 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第10号（通算71号）  
令和2年2月20日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



### よりよい「学級じまい」で、よりよい「スタート」を！

小中一貫教育課 指導主事 田村 和弘

あと1か月で今年度が終了します。「学級じまい」に向けて、先生方は児童生徒とともに様々な取組をされていることと思います。

「学級じまい」をするにあたって、私は、「このクラスでよかった」と思って次の学年に進んでもらいたいとの願いから、レクリエーション等の「楽しい思い出づくり」に力を入れた記憶があります。そして私自身、その取組に満足し、自信をもって次の学年に送り出したという自負がありました。しかし、いざ、次の学年がスタートしてみると、生徒たちから「今のクラスは嫌だ」等のネガティブな言葉を聞くことがしばしばありました。私自身の学級経営のスタイルが「学級集団の団結」等を強く求める管理型で、1年間で「他のクラスにはない暗黙の行動様式」が共有され、他を受け入れられない状況が生まれたことが原因の1つだと思われます。

河村（2020）は、「ゆるやかに結合されたシステム」を「個の自律性・独立性・多様性が重視されたうえで、特定の共通項目を果たすために、水平的かつ柔軟に結合して、漸進的に目的達成を目指そうとするものである。」とし、インクルーシブ教育の推進等、これからの学級集団の指針として「堅固に結合されたシステムからゆるやかに結合されたシステムへ」を挙げています。「堅固に結合されたシステム」では同調圧力が強くなり、多様性を認めにくくなります。生徒の「今のクラスは嫌だ」という発言は、多様性を認められないという「堅固に結合されたシステム」のマイナス面の表れと言えます。

年度末のこの時期に、もう一度自分の学級経営を見直すとともに、「学級じまい」では「楽しい思い出づくり」の他に「多様なよさ」を認める取組をたくさん取り入れ、次年度のよりよい「スタート」につなげてほしいものです。

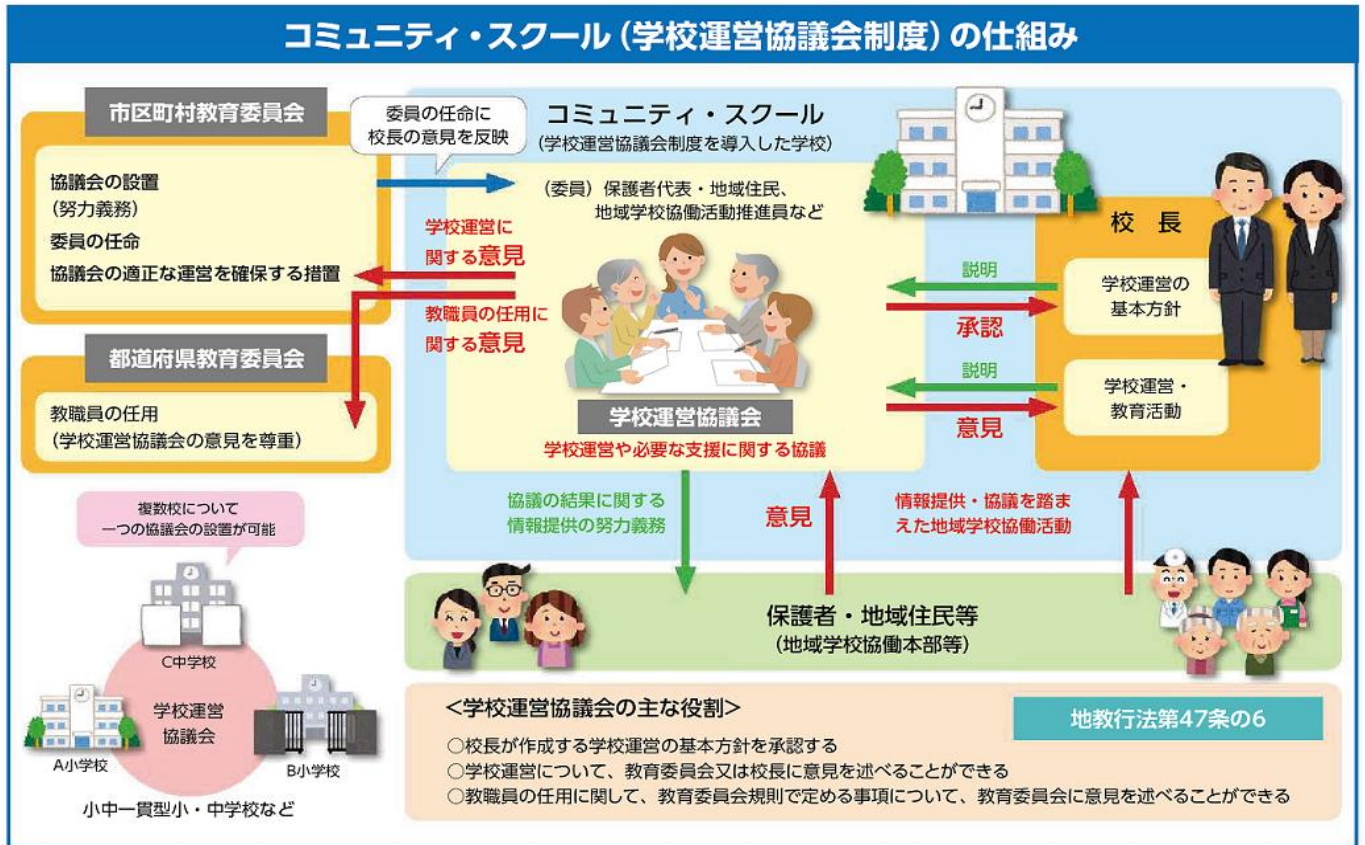
#### <参考文献>

河村茂雄 2020 「QUを活用したPDCAサイクルで教育実践(12)これからの学校教育課題の達成に求められるもの—インクルーシブ教育型学級集団づくりを組織対応で推進する—」 『指導と評価三月号』（通巻783号）（一社）日本図書文化協会 日本教育評価研究会

# 全学校でコミュニティ・スクールを導入します

令和2年度から、三条市の全学校でコミュニティ・スクールを導入します。(現在、市内18校が導入をしています。) コミュニティ・スクールの導入は努力義務となっており、今後「地域とともにある学校づくり」を推進する有効な手立てとなることが期待されています。

下の図は文部科学省が示しているコミュニティ・スクールの仕組みの図です。学校運営や必要な支援について、学校・家庭・地域の代表から構成する学校運営協議会で協議をします。



こうした仕組みは、学校評議員制度と似ていますが、下の表のとおり、目的や委員の学校との関係が大きく違います。

## <学校運営協議会と学校評議員>

|    | 学校運営協議会<br>※合議体   | 学校評議員<br>※合議体ではない                   |
|----|---|-------------------------------------|
| 法律 | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律   | 学校教育法施行規則                           |
| 目的 | 地域住民や保護者が一定の権限をもって学校運営に参画することにより、「目標やビジョン」を共有して、社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組むこと | 校長が、必要に応じて学校運営に関して、地域住民や保護者の意見を聞くこと |
| 関係 | 主体的な参画、当事者意識<br>(学校のパートナー)  | 第三者的関わり<br>(学校の支援者)                 |
| 立場 | 非常勤の特別職の公務員として<br>教育委員会が任命  | 教育委員会が委嘱                            |

さらに、学校運営協議会は複数校での設置が可能なることから、三条市は現在ある小中一貫教育推進協議会を「学園運営協議会」に発展・移行し、これまで以上に、家庭・地域で各学園の小中一貫教育を支えていく仕組みをつくりまします。

子どもたちの育成のために、皆様方の更なる御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



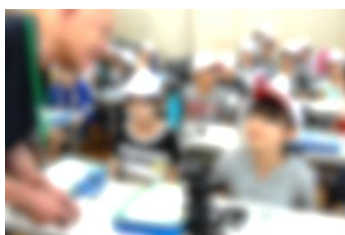


## 「刃物・ものづくり教育」



## ありがとうございました

### ◀「ものづくり」に対する興味・関心を高め、その楽しさやすばらしさを実感する姿▶



◆けがをしてしまったので、次からは気を付けたいです。でも、とても楽しかったです。小刀の使い方に興味をもちました。どうしてあんな切り方をするのか、

どうしてあんなに薄く切れるのかを調べてみたいのです。(小4・竹とんぼ)

◆和釘はカクカクしていて動きにくくなっている(板が回らない)から、そこの知恵がすごいと思いました。(小6・和釘づくり)

◆実際に包丁を研ぐのは機械の方が速いし安全かなと思いましたが、やってみて、自分で研いだ包丁がここまできれいになるんだと、達成感がありました。(中2・包丁研ぎ)

◆木の中心と体(顔)の中心を合わせ、正しくまっすぐに切ることが大切だということが分かりました。切り終わったときには、もう腕はへろへろでした。(中1・木工用工具)

### ◀職人技のすばらしさ、職人や家族、周りの人々への思いを深める姿▶

◆母も3年生のときに「鉛筆削り学習」をしたそうです。母は「自分で削った鉛筆は更に大切に使用おうと思えるよ。」と言っていました。そう思いました。(小3・鉛筆削り)



◆厳しい人もいましたが、それは、「日本の文化を大切にしてほしい」という熱い気持ちや思いが込められているんだと思いました。(小6・和釘づくり)

◆「カエリ」が出るタイミングに気付かなかったときに、職人さんは、一目見ただけで「カエリ」が出ていることを確認していて、



長年の経験が生かされていると思いました。(中3・包丁研ぎ)

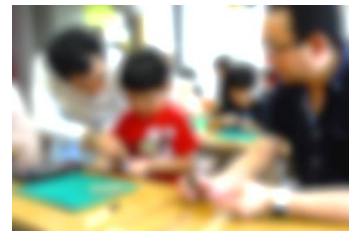
◆普段包丁とは無縁ですが、親が結構使うので、こういう機会にきれいに研いで、日頃の感謝を包丁に込めて研ぎました。(中1・包丁研ぎ)

◆髪の毛1本分という「刃の微調整」をできることはすごいと思いました。(中1・木工用工具)

### ◀「ものづくりのまち三条」の歴史や文化を知り、そのよさに気付く姿、大切にしたいと考える姿▶

◆小刀を使うことは好きなんだろうなと思いましたが、与える機会がなく、今回真剣に鉛筆削りをしている姿を見て、よい機会を与えていただけたと感謝しています。(小3保護者・鉛筆削り)

◆初めて和釘をつくってみて、三条にこんなにすごい伝統があったことや他の県や世界から人が来るということにすごく驚きました。伝統を知って、体験できるっていうのはすごくいいことだと思いました。(小5・和釘づくり)



◆学習で「ものづくり」の楽しさを知り、家族や知り合いに広めました。全国に広まり、次の時代また次の時代と広まっていき、未来までものづくりが続いていってほしいです。(中1・木工用工具)

寄せられた子どもたちの声から一部を紹介させていただきます。今年度は、4つの学習「和釘づくり」「小刀」「包丁研ぎ」「木工用工具」に延べ62校、124学級、児童生徒3,303人の参加がありました。AI技術の発展にみる「よさ」と併せて、鍛冶の技術(職人技)とものづくりにみる「よさ」を感じてほしいと、そんな学習環境を提供していければと願っています。多くの御理解・御協力ありがとうございました。



## プログラミング教育の授業実践紹介 長沢小学校



1月16日(木)、長沢小学校で、プログラミング教育の一環として算数(5年「正多角形」)の授業が行われました。この授業は、学校が自主的に応募し採択された「TOHOKU わくわくスクール」事業が基になっていて、日立ソリューションズ東日本から講師が派遣されて行われたものです。内容はこれまで吉邨先生の授業で学習してきた「正多角形の角の性質」を拠り所に、「スクラッチ」を使って正多角形の作図方法を発展的に考えるというものでした。子どもたちは、正方形で考えたことが正三角形に上手く使えないことに問題意識をもち、試行錯誤したり仲間と相談したりしながら、作図に必要な角(外角)の見方を理解していきました。さらに、いろいろ試す中で偶然できた星形多角形を見て「すごい!」「きれい!」と盛り上がる場面もありました。



形で考えたことが正三角形に上手く使えないことに問題意識をもち、試行錯誤したり仲間と相談したりしながら、作図に必要な角(外角)の見方を理解していきました。さらに、いろいろ試す中で偶然できた星形多角形を見て「すごい!」「きれい!」と盛り上がる場面もありました。

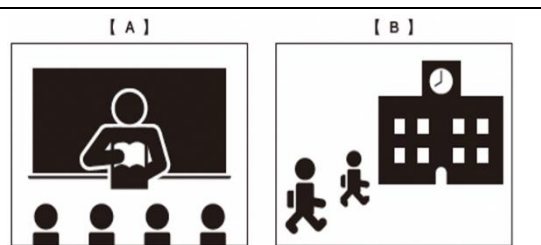
※「TOHOKU わくわくスクール(2019年度版)」 <https://www.kasseiken.jp/wakuwaku/>

※図形の見方・考え方とプログラミング的思考力を育むことをねらった「正多角形の作図方法を考える教材」は、来年度から使用する教科書に掲載されています。「学図プラス」のソフトでも同じようなシミュレーションをすることができます。「スクラッチ」は、「学図プラス」よりもプログラムの要素が多く、プログラミングの活動性が強いです。ねらいや計画に応じて、どちらのソフトを使うかを決めていただければと思います。

## 今、求められる力 ～全国学調(英語)から見えるもの～

今年度4月に実施された全国学力・学習状況調査中学校英語の問題を紹介します。

海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



全国の中学3年生の正答率が1.8%ということからも、難しい問題であることが分かります。生徒はどこにつまずくのでしょうか。国の分析によると、どちらの案を支持するのか立場を明らかにしていない、主張に一貫性がない、25語以上という一定量のまとまりのある文章を書けないといった、英語力の問題だけではない点についても指摘されています。一方、無答が少ないことから、なんとか伝えようとする粘り強さがあることが分かります。伝えたい気持ちはあるけれど、その方法を習得する経験が不足しているようです。これらの力を9年間というスパンのなか、教科の別を問わずに育成し、生徒が自分の考えを英語で表現できるようになる日が来ることを願っています。

(正答例) I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library.

<お知らせ> 「数研式個人累積システム PS サポート研修会」を栄庁舎メディアルームで開催します。  
小学校・前期課程 令和2年2月25日(火)、中学校・後期課程 令和2年3月10日(火)  
詳しくは既に通知済の案内文書を御確認の上、御活用ください。